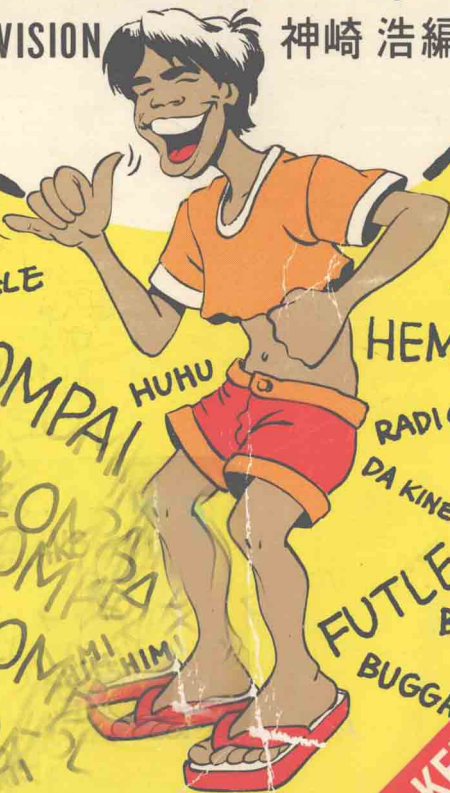


PIDGIN TO DA MAX

俗語辭典

PEPPOVISION

神崎 浩編訳



BOBURA
GGAI
KENKYUSHA

俗語辭典

PIDGIN TO DA MAX

PEPPOVISION

神崎 浩 編訳

研究社出版



KENKYUSHA

〈検印省略〉

ハワイ 俗語 辞典

昭和 60 年 7 月 10 日 印 刷

昭和 60 年 7 月 20 日 初版発行

原 著 者 ペッポヴィジョン

編 訳 者 神 崎 浩

発 行 者 植 田 虎 雄

印 刷 所 研究社印刷株式会社

発 行 所 研究社出版株式会社

〒101
東京都千代田区神田駿河台 2-9
電話 (編集) 03 (291) 1416 (代)
(販売) 03 (291) 0951 (代)
振替口座 東京 7-83761 番

ISBN 4-327-45058-8 C 1082 ¥950 E 定価 950 円

ま え が き

PIDGIN TO DA MAX は楽しむためのものです。私たちはたくさんのピジンの言葉を集めて、それを私たちが使う通りに、また聞いた通りに文字に書き表わし、楽しみました。みなさんにもぜひ楽しんでいただきたいと思います。

私たちがピジンに対して、大きな敬意を払っていることも、みなさんに知ってほしいのです。それは、ピジンがある意味では、ハワイの心臓の鼓動のようなものだからです。ハワイの人々が集まりくつろぐ時、ピジンを話します。それは心から出てくるのです。

ピジンを書き写すのは簡単なことではありません。おそらくみなさんは、自分なら異なった書き表わし方をするだろうと思われるものに気がつかれることと思います。それはかまわないのです。つまりピジンには人間と同じぐらいたくさんの変形があるからです。私たちはできるだけわかりやすくすることにベストをつくしました。そしてイラストの助けも借りました。

私たちは *PIDGIN TO DA MAX* に用いた言葉の説明やイラストがだれかを侮辱することのないように望んでいます。私たちはだれもバカにしているのではなく、冗談にしたいと思っています。

私たちはハワイとピジンに対する私たちの愛情が伝わる

ことを望んでいます。そのためにこの本を作ったのだからです。つまり、私たちに多くのことを与えてくれたハワイの人々と土地に、なにかお返しをしたかったからなのです。

アロハ

ペッポ

ケ　ン

パット

*

ハワイ人以外の人々への忠告：*PIDGINTODAMAX*
は旅行者のためのピジンのガイドブックではありません。
ですからこの本を読み終えてからも、ピジンを使って話そ
うなどとししないでください。面倒なことになるだけです。

編 訳 者 ま え が き

ペッポヴィジョンから出版されている *PIDGIN TO DA MAX* (ピジン 100 パーセント) を土台にして、ハワイのピジン英語(英語を基礎として、単純化した文法に他国語の語彙が混合されてできあがった、意思疎通を目的とした言語・ハワイのピジン英語に関しては p. 219 を参照のこと)に関する本を書いてみないか、という話がボクのところに持ち込まれたのは、83 年の秋だった。

その年の春にボクの勤める短大の先輩の先生から、テーマはどんなことでもかまわないから、原稿用紙 400 字詰で 10 枚ぐらい書いてくれないか、実は大修館の『英語教育』から原稿を頼まれているんだけど、どうしても体調があまり思わしくないで、なにも書く気力がなくて困っているんだ、と言われた。なにかおもしろい話題はないものかと考えて、ふと思いついて、今、ボクの関心事といえば、ハワイのピジン英語なのですが、それでもいいですか、と尋ねると、もちろん結構だ、ということだった。そこで、春休みの間を利用して原稿を書き上げて、その先生にお渡ししておいた。それが『英語教育』の 9 月号に載ったのだった。

ちょうどそのころ、研究社の『時事英語研究』にもピジンに関する記事が載っていた。これは、*Newsweek* 83 年 3 月 14 日号の “Hey, Haole, Wassamattayou?” という

タイトルの1ページものの対訳記事だった。

偶然といえば、まったくの偶然で、この『ニューズウィーク』の記事も、ボクが書いた原稿も、*PIDGIN TO DA MAX* に言及している。だが、もう一步考えを進めると、ピジンに関して書こうとすれば、どうしても *PIDGIN TO DA MAX* を無視することはできない、ということになるのだろう。それぐらい今まではピジン英語というものを紹介する本もなかったし、研究書もなかった。つまり、ピジン英語の存在が無視されていた、ということになるのだ。

ボクがこの本に接したのは、82年3月にマウイ島へ行った時、友人の Dean Yamamoto 夫妻からプレゼントされたのが最初だった。わら半紙を少し良くした程度の安っぽい紙に、これまた安上りの印刷をしたらしく、インクの濃いところや薄いところがあって、かなりひどい出来だった。しかし内容は非常におもしろく、イラストも、ハワイのロコ (local 地元民) たちの表情をユーモラスに伝えるものだった。

その翌年、83年にふたたびハワイへ行くと、続篇の *PIDGIN TO DA MAX HANA HOU* (またまたピジン100パーセント) が発行されていた。その「まえがき」の部分を見ると、最初のもが予想した以上に良く売れて、それに対する反響が殺到したので、すぐに続篇を出す作業に入ったということだった。

たまたま入ってみた何軒かの本屋では、どこでもこの2冊は「平積み」にしてあり、良く売れているようだった。ある本屋では、ちょうど入ってきたふたり連れの女客のひとりが、この本を手にして、「これはとてもおもしろいから

読んでごらんなさい」ともうひとりのほうに勧めていた。どうも見たところ、一方はハワイ人で、もう一方はアメリカ本土から来た友だちという感じだった。

カリフォルニアのサンタモニカやマリブといった海岸にたむろしているサーファーや若者たちの間でも、近ごろは *to the max* だとか *bag it* や *radical* などという言葉が使われるようになったと聞いている。はたして彼らはそのような表現が、ハワイ・ピジンから来ているということを知って使っているのだろうか。

わが国でも、ハワイ・ピジンに関する研究書は皆無である。ほんの少数のレポートおよび小論文が研究誌に発表されているにすぎない。このような研究は、単なる一個人ではどうしようもない大きな問題をかかえていることは、ここで今さら強調するまでもないことである。つまり、音声学的な研究、他の国々の言語、特に中国語、朝鮮語、フィリピン語、サモア語、トンガ語などの南太平洋諸島の言語、ポルトガル語などからの影響の研究、ハワイ語の研究、ハワイ以外の地域で使われているピジンとの比較研究、ハワイにおけるピジンの時代的な変化の研究など、それぞれの専門分野の人々が協力しあって行なうことで初めて成果があがるのである。

この *PIDGIN TO DA MAX* はそう言った点では、なにもハワイ・ピジンの研究書ではない。ただ、現在ハワイの島々で日常生活の中で、ごく一般の人々が生活語として用いているピジンを拾い出して、アルファベット順に並べ、語句の説明を加え、必要のあるものに対してはピジンの用例に標準英語での表現を添えただけのものである。だが、説明があるからといって、ピジン英語に一度も接した

ことのない人には、まるで無意味な説明があるので注意が必要である。

たとえば――

Kona weather Hauna weather. (いやな天気)

Kools State Cigarette of Hawaii. (ハワイ州のタバコ)

manapua man Smallkeed time when you heah him coming an' you run to yo' moddah fo' one quartah. (子供のころ、この人がくるのが聞こえると 25 セントもらうためにおかあさんのところへ走って行った)

Maui wowie Heavy-duty Valley Isle smokes. (キツイ、マウイ産のタバコ)

このような説明は、英語が理解できるだけでは、なんのことやら意味がわからない。しかし、ピジンを使っている人たちがこの説明を読めば、なぜそのような説明がつけられたのか、すぐにそのおもしろさが理解できるのである。そして、爆笑することうけあいである。だから、この本はよそ者たちにピジンのおもしろさを理解してもらおうとか、ピジン研究に役立つだろうという目的で書かれたものでないことだけは確かなことだと言えるだろう。

さらに、もうひとつ問題点をあげるならば、ピジンはあくまでも話し言葉であって書き言葉ではない、ということである。だからそれをあえて文字に表わそうとすると、スペリングの問題が起こってくる。発音通りに厳密に書き表わすには発音記号にたよるしか方法はない。それを英語的

なスペリングで書くと、どうしても個人差が出てしまって、同じことを表わそうとしているのに、書き方が違う場合が起こることがある。

今、ボクの手元に、昨年の夏交換学生として来日した Maui Community College の学生から受け取った礼状がある。ボクがピジンに関心があることを知っている彼らは、わざとピジンで書いているので、それを紹介して、*PIDGIN TO DA MAX* のスペリングとの違いを比較してみよう。

Thanks ah, foa all da kine stuff you wen go do
foa us guys. We stay appreciating all da traables
you and da Mrs. wen go thru la dat.

Wen you stay came Hawaii, us guys like try get
togada. Wat?—can or wat?! We stay dying foa
show you some da kine Hawaiian hospitality.

Plenny alohas

& mahalos!

私たちのためにいろいろとしてくださってありがとう。あなたと奥さんがしてくださったすべてのご苦勞に感謝しています。

ハワイにこられたら私たちはまた一緒に集まりたいと思っています。いいでしょう？ できますね?! ハワイ式のおもてなしをお見せしたいと思っています。

ほんとうにありがとう

Thanks ah = T'anks eh, foa = fo', la dat = li'dat, togada

=togeddah, Wat=Wot——ざっと以上のような違いが、これだけの短い文章の中に見つかるのである。「まえがき」でもスペリングの仕方には個人差があることを認めている。要するに、ピジンは先にも書いたように、話し言葉であって、書き言葉ではないのである。だから文字としてピジンを収集することは、かなり無理な作業であって、できれば音声としてテープにでも録音したものを併用することが望ましい。しかし、これはあくまでもよそ者の意見であって、ピジン常用者には無用なことである。

もうひとつ、ピジン常用者には無用なことだが、ピジンを日本語にする時に苦労したことは、どんな日本語に訳したらよいか、ということであった。だいたい、ハワイに移住した日本人は、九州の熊本、中国地方の山口と広島の出身者が圧倒的に多いのである。だからハワイで聞く日本語はこれらの地方なまりが主体となって、そこに英語やハワイ語などの単語が入った、いわば、ピジン・ジャパニーズとも言うべき日本語である。しかし、そのような日本語を訳語として用いるわけにはいかない。だからといって、熊本弁や山口弁、または広島弁を使用するのも、なにか特定のイメージで限定してしまうようで、これまた適当ではないようである。

よく、黒人が登場する小説で、黒人の英語を東北なまりの日本語に訳した例を見ることがあるが、いなからしさ、無教養さを強調する目的で東北弁を使用しているのだとしたら、これは黒人の側にも、東北地方の人々にも、たいへん失礼なことだと言わなければならないだろう。

そんなわけで、ピジンの日本語訳は、あえて標準語的口語ですることにした。そうすれば、訳文によってある特定

なイメージを与える心配もないし、訳文はあくまでも原文の意味を伝えるだけで、その言葉の持っている独特なニュアンスを損なう心配はないと考えたからである。

さて、この *PIDGIN TO DA MAX* (正統2冊) を土台にして、訳と解説をつけた初校のゲラを持ってボクは今年(85年)2月末にハワイへ飛んだ。自分ではかなり満足できる出来映えだと思っていたのだが、もうひとつ確信が持てない箇所がいくつかあるのが気になっていたからである。その部分を現地でロコたちに聞いて解決したかったのだった。なにぶんと春休み中の、入試や進級・卒業のための成績審査会議の間をぬっての、短期間の訪問だったので、現地の友人たちの都合を無視することになって、会っていろいろとアドバイスをしてもらうつもりの人物に会えなかったり、会えても時間的にゆっくりと話しあえなかったというアクシデントはあったが、いちおう初めに予定した作業は全部終わらせることができた。その予定の作業のひとつに、ペッポヴィジョンの社長である Douglas Simonson 氏と会って、*PIDGIN TO DA MAX* を編集するに至った動機とか目的に関して、質問をしたいという項目が含まれていた。

84年の春に彼のオフィスを訪問した時は、もっぱら彼のほうが聞き手で、はたしてこの日本人が、どの程度ハワイのピジンに関して知識を持っているのか、また、ハワイには何度も来て、友人もたくさんいると言っているけれど、その人たちがどれぐらいピジンについての情報を、この日本人に与えることができるのか、といった事柄について質問してきた。

ところが、*PIDGIN TO DA MAX* は翻訳を進めて

みると、先に述べたように、現地でピジンを使って生活している人たちにはおもしろいのだが、これを使って「ハワイ俗語辞典」なるものを作ろうとする、われわれの側の目的にはそわない部分が多いのである。そこで内容をいくらか変えて、解説を大幅に増やし、新たに単語も加えて、より辞典的な要素を強めることにした。

だから今回は、こちら側がサイモンソン氏のピジンに対する知識とか見解を聞いてみる必要があると判断したのである。

サイモンソン氏は71年に21歳の時、アメリカ本土からハワイに渡ってきたと言っている。その時は、仕事のあてもなく、金もなく、ただハワイこそ自分が定着する場所だという信念だけを持って来た、というのだから、なにか神がかっているのか、自分をいくぶんかミステリアスな人物に仕立てようとしているのか不明だが、アメリカ人好みの、移動性に富んだ行動としては、それほど不自然なことではないと理解して、納得した。しばらくハワイで生活するうちに、彼はハワイの人々がアメリカ本土の人たちとはかなり違った種類の英語を話していることに興味を持った。これを集めて、ジョーク集のようなものが作れないだろうかと考えた。そして、ロコであるケンとパットのふたりの仲間といっしょにピジンを使ったジョークを作り、イラストを自分で描いて、最初の本を作ったということである。だから、これはピジンの研究書でもないし、解説書でもない。ロコたちがこれを読んで、自分たちの日常使っている言葉が標準的な英語とはこれぐらいかけ離れたものだというのが、冗談のうちにわかってもらえればいいのだ、とサイモンソン氏は語ってくれた。

ピジンの単語を集める際も、ジョークが作れるかどうかを目安として集めたから、重要な単語が入っていないことも当然あるだろうし、また意味も年代や地域差などがあるだろうが、それはあまり気にしないで、自分の周囲にいる人々からの情報だけを頼りにして作った、と言うので、ボクが、マウイ島にいる友人が、この単語にはこういう意味もあると言っている、と言うと、「ヘー、そうか、それは初耳だ」と言ってメモを取り出したのには、こちらが驚いてしまった。

現在までに *PIDGIN TO DA MAX*, *PIDGIN TO DA MAX HANA HOU* と2冊のピジン集を出しているので、まだこの次に第3冊目を出す予定があるのかとたずねると、もうピジンはこれで終りだ、今度はハワイの食べ物に関するおもしろい本を考えている、という答えが返ってきた。

ペッポヴィジョンはこのほかに、*PAPAYAS* というピジンの漫画本を2冊と、*HAWAII TO DA MAX!* という60ページほどの小冊子を出している。今後ますますの活躍を期待したい。

最後になってしまったが、この「ハワイ俗語辞典」を作るにあたって、ずいぶんたくさんのハワイの友人たちから情報を提供していただいたことに、この紙面を借りて、心から感謝を申し上げたい。特に *PIDGIN TO DA MAX* を最初に贈ってくれた Dean と Minnie Yamamoto 夫妻、多忙中にもかかわらず何度も手紙でピジンの説明をしてくれた George Sawa、わが家に泊り込みで語句の解説をしてくれた Daryl Sakugawa、その他、Wailuku に住む Wayne Ikeoka、ハワイに行くたびにお世話になる

Wally Ueki 夫妻など、いちいち名前を上げればきりがながい
が、以上の諸氏の協力なしでは、この本の完成は考えられ
なかったことを、ここに感謝とともに特記しておきたい。

さらに、研究社の吉田尚志氏、佐藤淳氏のおふたりのき
め細かな協力にも感謝を申し上げたい。

Aloha and mahalo nui loa!

1985 年 3 月

神 崎 浩

凡 例

SMALL CAPITALS で示された語は、その語が本辞典中で見出し語になっていることを示す。

見出し語以外でボールド体で示された語は

1. 見出し語の同類語で、本辞典中で見出し語になっていないもの。
2. 派生語など見出し語に関連した言葉。
3. 見出し語のスペリングのバリエーション。

見出し語と用例中の語のスペリングが異なる場合もあるが、バリエーションと考えてもらいたい。

▶ 以下は見出し語の内容に関する蛇足的説明である。

ビジン ハワイ人が日常用いている話し方を、発音を主体としたスペリングで書き表わしたもの。

英語 一般のアメリカ人が日常会話として用いている表現。

発音記号は I.P.A. (国際音標文字)を用いた。

見出し語のスペリングと発音が異なる場合があるが、ピジンなまりを強く出すために、意識的にしたことである。

例) **bobura** [bó:budə] / **haole** [háuli:]

目 次

まえがき	iii
編訳者まえがき	v
凡 例	xv
ハワイ俗語辞典	1
ハワイの挨拶	215
ハワイの食べ物	217
ハワイのピジン英語	219
ハワイ豆知識	
ハワイの州旗 42 / ハワイの火山 93 / ハワイの州歌 133 /	
砂糖キビとパイナップル 141 / ハワイの神々 163	